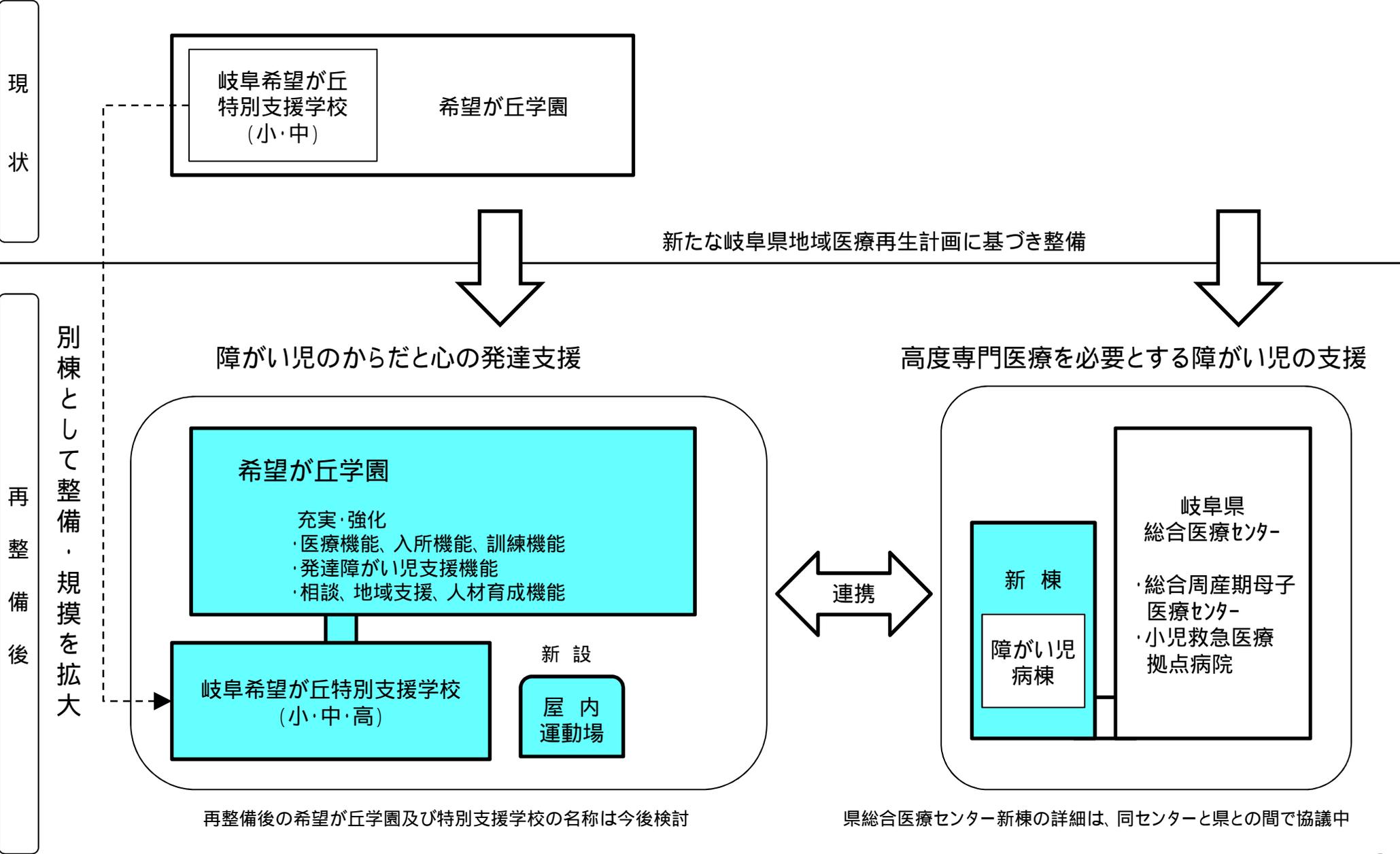


資料2 希望が丘学園及び岐阜希望が丘特別支援学校の再整備の考え方



資料3 新旧施設の規模及び機能の比較

	現 状	新 施 設 (計 画)
<p>希望が丘学園 (病院・肢体不自由児施設)</p>	<p>【規模】 定員：入所88名、通園55名 通園利用者の増加により近年の入所児は30名前後 延床面積：4,490㎡</p> <p>【利用状況と課題】 施設設備の老朽化 発達障がい児を含めた外来による診療、訓練、相談の増加に対してスペースを拡大する余地がない 県下各地域の療育機関への技術的支援に際し、研修等の設備がない</p>	<p>【規模】 定員：入所50名、通園40名程度 近年の利用状況を踏まえ見直し 延床面積：約6,700㎡</p> <p>【強化する機能】 病室面積拡大(6㎡→9㎡)など療育環境充実 外来診察室、検査室等医療体制の拡充 発達障がい児用の診察室、待合室、訓練室、病室の新設 家庭等の日常生活空間を模した訓練室、室内遊具を用いた感覚統合療法室の新設 研修室や研修生控室の整備による人材育成機能、県下療育機関への支援機能の強化</p>
<p>岐阜希望が丘 特別支援学校</p>	<p>【規模】 近年は小・中計50～60名で推移 延床面積：2,116㎡</p> <p>【利用状況と課題】 在宅化の進行による通学生の増加 高等部の設置要望 施設の狭隘化、特別教室の不足 屋内運動場が無い 障がいの重度重複化、医療的ケアの必要度の高い障がい児の増加 岐阜地域の他の特別支援学校との役割分担、県内の特別支援学校への情報提供等センター機能の強化</p>	<p>【規模】 定員90名(高等部を新設) 延床面積：約6,800㎡(屋内運動場等を含む)</p> <p>【再整備の考え方、強化する機能】 通学生のためのバス乗降場の新設 高等部の新設、被服室・陶芸室・食品加工室等職業教育のための教室の新設 屋内運動場の新設 医療的ケア処置室の新設や希望が丘学園との連携により児童生徒の健康や安全に配慮 肢体不自由児教育の拠点校としての専門性を向上させ、他の特別支援学校と連携</p>

資料4 希望が丘学園及び岐阜希望が丘特別支援学校の再整備に至る経緯及び今後の予定

H21年	3月	<ul style="list-style-type: none"> ・「岐阜県長期構想」及び「子どもかがやきプラン改訂版」において、希望が丘学園及び岐阜希望が丘特別支援学校の再整備方針について定める
H23年	4月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県地域医療対策協議会において、希望が丘学園の再整備と岐阜県総合医療センターへの障がい児病棟の整備による総合的な療育体制の構築が「新たな岐阜県地域医療再生計画」に盛り込まれる
	5月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育関係者からなる子どもかがやきプラン推進委員会において、特別支援学校の再整備方針を協議
	6月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・医療・福祉関係者及び利用者代表からなる岐阜県総合療育拠点整備検討委員会において、希望が丘学園の再整備及び県総合医療センター新棟の整備方針について協議（10月19日まで全4回開催）
H24年度		<ul style="list-style-type: none"> ・基本設計・実施設計
H25年度		<ul style="list-style-type: none"> ・本体工事着工
H27年度		<ul style="list-style-type: none"> ・主要施設(病院・病棟・特別支援学校校舎等)の竣工、準備、供用開始 ・現行施設解体
H28年度		<ul style="list-style-type: none"> ・第二期工事（現行施設跡地の活用）
H29年度		<ul style="list-style-type: none"> ・第二期工事分供用開始